

## 平成24年度 第2回 平塚市図書館協議会 会議記録

**開催日時** 平成25年1月29日（火）14時00分～16時00分

**開催場所** 平塚市中央図書館 会議室

**出席者** 会長 村山 真由美

副会長 小林 美和子

委員 磯部 博之、諸山 朝子、中野 威、高橋 麗奈

事務局 後藤社会教育部長、和田中央図書館長、池田北図書館長、  
桐山西図書館長、富田南図書館長、飯田管理担当長、菊坂奉仕担当長、  
加藤主管、土屋主管、富田主事

**傍聴人** なし

### 会議の概要

- 1 開会あいさつ 後藤社会教育部長
- 2 会長あいさつ 村山図書館協議会長
- 3 議題

(1) テーマ「平塚ならではの市民にとって利用しやすい図書館」について

ア レファレンスの積極的周知と結果の公開について

事務局 積極的周知としては、レファレンスサービスについて、なじみのない人にもわかりやすいように参考室に掲示を行っている。また、1階ホールなどでの展示やホームページでのよりわかりやすい案内を検討している。

レファレンスとは調べものであり、人によっては、インターネットで調べられるので、図書館で探す必要はないと考えられてしまっている場合がある。しかし、インターネット上では情報の書き換えや歪曲など、サイトによっては信ぴょう性に疑問のある場合があるので、その点からも図書や雑誌などの情報の正確性や欲しい情報の探し方の多様性などをアピールしたい。

レファレンスの結果の公表については、いままで手書きで作成していたレファレンス記録票について、個人情報に記載しない形でデータベース化し、事例をホームページでQ&A方式等に加工して公表できるよう準備を進めている。

児童向けサービスに関しては、調べものをPRするためのキャッチコピーの絞り込みやポスターの作製の準備を行っている。また機関誌「こどもきいぶ」に来年度の記事として「レファレンスってなあに」のコラムを載せる予定。子ども読書の日に合わせて、「こどもきいぶ」を図書館のホームページで公開し、資料展示の棚やカウンターに掲示する予定。

南図書館において「おかあさんのための図書館体験」開催時に実施した調べものがたいへん好評だったことから、前回協議会時に御提案をいただいた、調べものクイズの実施については、小学生むけの一日図書館員でも調べものクイズを行っており好評である。昨年度から中央図書館でも市民の図書館体験を始めているが、昨年度はその際調べものクイズを実施した。体験の内容を絞って行っているため、今後実施する中に組み込んでいくことになる。

(質疑応答)

委員 きいぶの記事と共通の記事をわかりやすく、内容をさらに詳しくホームページに組み入れる考えはあるか。

事務局 ページの型を練り直す必要があるが、組み入れは考えている。

委員 紙節約のために「こどもきいぶ」をホームページ掲載としているとのことだが、ホームページだけではなかなか見られない方もいるので、図書館にプリントを置く考えはないか。

事務局 館全体での用紙使用を調整して、印刷・配布が可能かを考えたい。

委員 内容を地域の回覧板に付けて回すのはどうか。希望する学校の図書室においてもらうのはどうか。

事務局 地域回覧板については、回覧物が多すぎるため、逆に減らすよう言われていることもあり難しいが、関係の学校に配布することなら可能。

委員 レファレンスにおいて、利用者の質問によっては平塚市図書館だけでは対応が難しいものがあると思うが、他の協力機関などとの協力体制はあるのか。

事務局 県立図書館によるレファレンスのバックアップや国会図書館が行っているメールによるレファレンス受け付けに照会をかけている。市の機関では市史編さん室や博物館に案内をするなどしている。また、専門分野の情報機関を紹介している。

委員 市民は、市立図書館が他の機関とつながっていることを知らないので、それをアピールする良い機会になる。子どもたちにも、わからないことがあったときは図書館を使う方法もあると教えられる。

座間市図書館での実施例から、調べ学習コンクールの地域コンクールについて

事務局 座間市では平成17年度から、図書館を利用して調べるという啓発を始め、平成22年度から図書館を利用した「調べる学習コンクール」を開催している。図書館だけでなく、地域の人々と協働で実施している。学校の先生も夏休みの宿題への取り組みに、先生として参加している。

座間市の事例以外では、調べる学習コンクールにかなり積極的に取り組んでいる例として千葉県の袖ヶ浦市があり、ここは図書館ではなく教育関係の施設が中心となって実施している。

コンクールは全国規模で行われ、地域コンクールが全国の前段階で市で取りまとめる選考がある。コンクールへの参加は、学校との連携や、身近にそうした催しがあることをPRするという点で有意義である。しかし難点としては、提出物の採点における困難がある。審査のレベルを合わせ、要項で定めた採点基準があるが、得点がすんなりと決まるというのではなく、順位づけに苦労するとのことである。また、地域コンクールから全国コンクールへの出品には制限があり、募集点数の2%が上限となっている。採点と順位づけの難しさに全国コンクールへの狭き門への絞り込みという課題、そして事務負担の大きさがあり、いまのところかなり導入は難しい。地域コンクールを行うのは難しいが、もともと全体のコンクールがあるので、そちらのPRから始めたい。加えて、調べもののノウハウを紹介することを考えている。

委員 平塚市では全校に司書がいるので、学校と連携して、全国コンクールに出  
品してみるかどうか。また、その案内とともにレファレンスのPRを行って  
みるかどうか。

イ ホームページの活用について

事務局 前回協議会で話ができたアクセス解析の件は、システム業者への問い合わせ  
や資料を調べたところ、有料と無料のソフトがある。有料のものでは予算の  
問題があり、無料のものは解析結果がわかりづらいものがある。目的に合わ  
せて、解析ソフトで分析することが必要。システムに組み込む作業が必要と  
なる。まずは利用者が必要とするページを徐々に増やし、コンテンツを充実  
させながら、わかりやすく案内できるホームページづくりを行っていきたい。  
コンテンツの充実に関係し、電子図書については、「平塚ならでは」という  
点から考えると郷土を知っていただくことが大切になる。今後地域にゆかり  
のある著者の作品について電子化を進めていく。

委員 市のホームページのアクセシビリティについて。

どのブラウザから見ているのかが解析で分かる。まだ Windows98 などの  
古い OS と古いブラウザの組み合わせでインターネットに入る人がいるが、  
現在のホームページはものによっては閲覧ができなくなっている。一般的に  
はそうしたユーザーからのアクセスは諦めていただくような傾向が広がっ  
ている。今はスマートフォンが多い。ホームページは PC 用とスマートフォ  
ン用というように、それぞれに対応の専用画面を用意しないと、非常に雑然  
とした見栄えのしないものになる。ホームページのリニューアルが必要。も  
しそうしないのであれば、最新のホームページの美しさよりも、内容の充実  
に力を入れて対応してみるかどうか。

県立図書館などのホームページの状況調査について

事務局 県内中心にホームページを確認したところ、デジタルアーカイブを公開し  
ているところが多かった。

他にはブログ風の記事構成で本の紹介をしながら、地域にゆかりのある人  
に触れているものや、調べもののアドバイス・ノウハウを紹介しているもの  
などがあった。

また、図書館ではないが、自治体で開催している講座の受講者の論文を掲  
載しているところもあった。

ホームページのトップページなどに、知りたい情報が分かるように表示す  
ることが大切である。

ウ その他の報告（前回協議会の委員からの質問への回答）

写真などの地域資料の保管について

事務局 社会教育課に確認を取った。

写真などの地域資料で、文化財や芸能関係の資料は永年保存とし、広報用  
の資料は必要に応じて廃棄しているものもある。

学校への貸出についての過去の実施状況、団体貸出における需要について

事務局 学校に対しての団体貸出は、他の文庫の方への貸出と同じ条件で貸出を行っている。学校への団体貸出は、年に2～3回程度の利用状況だった。ただ、平成23年からあおぞら号の資料だけではなく、地区館などの資料も対象とした調べもの用と読み語り用のカードでのサービスを開始した。

(2) その他

事務局から、平成24年8月に行われた事業仕分けの状況と11月に発生した中央図書館外壁落下における対応、及び新聞報道された県立図書館の貸出・窓口業務の廃止について報告。

会長より閉会宣言があった。

以 上